

第9回文化ボランティアフォーラムを終えて

今回は、「若者と文化ボランティア団体の出会い」について考えることとしました。

県内の各地域で活躍する文化ボランティアは、いろいろな悩みや課題を抱えながら活動しています。なかでも会員の高齢化や世代交代の難しさなど、現状は深刻です。

この現状を何とか変えたいとの想いでテーマを検討したところ、昨年のフォーラム参加者から頂いたアンケートにそのヒントが潜んでいました。それは、フォーラムに「もっと若者の姿が欲しい」というものでした。そこで県内の大学にお声がけをした結果、僅か6名の参加でしたが『若い人の意見を聞いて、未来は明るいと感じた』と、思いのほか好評で、これまでのフォーラムにはない明るさと活気に満ちた楽しいフォーラムとなりました。

今回の講師には、昨年につき文化庁文化審議会委員も務められている文化ボランティアの第一人者 柴田英紀氏と、若者の代表として、アートプロジェクトや国際芸術祭などに関わるボランティアやサポーターの研究を続けておられる九州大学大学院に在学中の藤原旅人氏をお招きしました。

午後のとことん討論会では、6～8人がテーブルを囲み、8班に分かれてそれぞれ参加者の目指すべき姿（Will）を書き出し、現状（Can）を把握して課題（Must）を見つけ、わいわいと討論するなかで問題解決策を見出すWillCanMust分析という手法を使って盛り上がりました。その結果は議事録の本文に掲げるとおりです。

最後にフォーラムへ参加いただいた皆さまや、このフォーラム開催に関わっていただいた方々へ、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会

代表理事 田 中 正 治